
朋友だより

今回の朋友だよりでは金子勝教授の新著『平成経済衰退の本質』をご紹介します。現在の日本経済の現状を知る上で、大変示唆に富んだ内容です。

ご参考になれば幸甚です。

2019年8月

(有)コンサルタント朋友
代表取締役 奥長弘三



『平成経済 衰退の本質』を読む



何故、本書に注目したか

『平成経済 衰退の本質』（金子勝著 2019年4月 岩波新書）を読みました。金子勝教授の著書は以前から出来るだけ読むようにしているのですが、本書には特に注目した理由があります。それは次のような事情です。

本書のバックボーンに経済学者（金子勝教授）と生命科学者（児玉龍彦教授）の共同作業があるからです。経済学と生命科学という一見全く関係ない学者同士が、扱う対象の複雑性にどう取り組むかという観点から、共同作業を進めたという点に注目しています。二人の共同作業は、二人の共著として2冊の本にまとめられています。

・『逆システム学—市場と生命のしくみを解き明かす』（金子勝・児玉龍彦著 2004年1月 岩波新書）

・『日本病—長期衰退のダイナミクス』（金子勝・児玉龍彦著 2016年1月 岩波新書）

二人の共同作業が、本書のバックボーンになっていることは、巻末に付けられた「文献案内」及び「おわりに」で明らかです。

平成経済の特徴

本書では、平成経済の特徴を3点にまとめています。以下順次見ていきます。

1. バブル循環の繰り返し

不況のたびに創り出される大量のマネー、ニアマネー（いつでも現金化できる金融資産）が溢れ出し、やがてそれは投機マネーとなって暴れ出す。その結果、景気循環は財やサービスの生産・取引の実体経済が主導する景気循環から、80年代後半以降は株や土地、住宅の価値が主導するバブル循環へと変質していった。80年代後半は不動産バブル、90年代末はITバブルという株バ

ブル、2000年代半ばは住宅バブル、10年代は新興国と石油バブルといった具合である。（本書P.4）

2. 第2次安倍政権下での経済

安倍政権が、自分達の政権の維持・存続に全力を傾けている間に、肝心の日本経済は見せかけだけのものに進んでいきます。

日銀が株や不動産投資信託を買うという異例の政策をとって官製相場を作っている。つまり中央銀行が先頭に立って、株バブルと都心の不動産バブルを作り出すのである。それが内閣支持率を支える政権の生命維持装置になっている。（同P.127）

こうしたスキャンダルが発生する度に、株高で表向き「景気よき」を演出するために、日銀にETF（指数連動型上場株式投信）に購入させているのである。（中略）安倍政権は税金を集め、その税を使って、支出して国民を統合するという、まっとうな政治の基盤を徹底的に壊してきた。（P.128）

3. 産業の衰退が止まらない

産業の衰退に眼を向けている点が見事です。海外との比較でも、日本の遅れは深刻です。

いま日本が直面しているのは、如何にして産業衰退を食い止め、日本経済の破綻を防ぐかという問題である。その意味が国家戦略とプラットフォームの関係が極めて重要性を持っている。

1990年代初め、アメリカのクリントン政権下の情報スーパーハイウェイ構想とともにパソコンのOSの高機能化が進み、情報産業の基盤を作った点が参考になる。或いは北欧諸国が大胆な銀行の不良債権処理とともに、イノベーション研究開発投資や教育投資を通じて、先端産業を育成してきた事例が参考になる。ところが日本政府は、バブル崩壊以降、イノベーションに関しては、世界の先端技術の流れにそった国家戦略を立てるのに失敗してきた。（P.176～

無責任の体系

日本の政治、経済、社会の特徴の一つとして、失敗しても誰も責任をとらない無責任体質があります。「無責任の体系」といわれているものです。

1990年のバブル崩壊後の不良政権処理問題でも、2011年の東日本大震災のときに起きた福島第一原発事故でも、経営者も監督官庁も政治家も責任をとらず、当面もたせればいいと、ひたすら財政金融政策をずるずると続けてきた。その結果、財政赤字だけが膨張を続けて、経済の衰退が進行してきた。そして今なお、「失われた30年」は続いているのである。(P.18)

金融システム不安を収めるには、厳格な不良債権査定に基づいて貸倒引当金を積み、自己資本不足に対して公的資金を注入するか、国有化して不良債権を切り離すことが必要だった。(中略)結局、総計48兆円もの公的資金を注入されたにもかかわらず、経営者の誰も責任をとらなかった。(P.103)

新しい産業と社会を創出する為の提言

本書では、産業と社会を今一度つくり直す観点から、5つの提言をしています。

1. 社会基盤として透明で公正なルールが不可欠

いま真っ先に取り組むべき課題は、戦後の「無責任の体系」を精算し、社会の基盤となる透明で公正なルールを取り戻すことである。歴史をふりかえるまでもなく、権力者の周辺が批判や反対論を封じながら利益をむさぼる政治は、腐敗して社会そのものを滅ぼしていくからだ。

少なくとも与野党伯仲、参議院における与野党逆転を実現することが必要である。(P.195～196)

2. 教育機会を平等に保障する

社会の崩壊を防ぎ、新しい産業と社会を生み出すのは人間、とりわけ若者である。

(P.197)

知識集約型産業へ移行する中では、若い世代に平等に教育機会を与え、基礎研究、基盤研究の立て直しをすることが喫緊の課題となっている。(P.198)

3. 産業戦略とオープン・プラットフォームを作る

エネルギー転換、情報通信技術、バイオ医薬、電気自動車と自動運転など先端産業に関して産業戦略を策定する。(P.200)

4. 電力会社を解体する

エネルギー転換を促すには、時代の要請に応じてすみやかに電力会社を解体する事が必須。具体的には発電会社と送電会社を完全に分離する。(P.201)

5. 地域分散ネットワーク型システムに転換する

一つ一つは小規模で分散していても、IoTやICTの情報通信技術を基盤に連携する「地域分散ネットワーク型」への移行が求められている。

「地域分散ネットワーク型」のシステムへの移行は社会保障制度も同じ。財源と権限を地方に譲り、医療・介護・保育・教育といった現物サービスを地域できめ細かく対応出来るようにしていく。(P.203～206)

6. 時間をかけて財政金融の機能を回復させる

「出口のないネズミ講」化した日銀による赤字財政ファイナンスの正常化を図る。ゆっくりとした出口政策が求められる。(P.206)

今の日本に求められているものは、経済の衰退をくい止め、産業を興すことです。具体的には地域に根をおろした地域密着の産業を興し、一人でも多くの雇用を創り出す事が肝要です。農業・林業を含めエネルギー、医療、介護、保育、教育など若者に地域で働く場を保障することです。



経済学者と生命科学者の共同作業について

本文で紹介しましたように、経済学者（金子勝教授）と生命科学者（児玉龍彦教授）の共同作業の成果が2冊に共著本となっています。共同作業の内容を2冊の本に則ってご紹介します。

まず『逆システム学—市場と生命のしくみを解き明かす』（2004年1月 岩波新書）です。

経済社会や生命のような複雑な組織は、制御系が重要な役割を果たす事に注目し、市場や生命の本質を多重フィードバックの仕組みと見なす新しい科学の方法をつくりあげた。この方法を「逆システム学」と名付ける。（同書P.2）

そして同書の「変質する世界経済」の項で、次のように述べています。

経済が成熟段階に達し老化をはじめると、セーフティネットを起点とする多重フィードバックは総動員されるが、次第に機能不全に陥り出す。そして機能不全に陥ったセーフティネットを破壊するプロセスが始まるが、多重フィードバックを考慮した新たな調節制御のしくみを作り出す事をしないので、破壊だけが進み、かえって危機が加速されてしまうのだ。セーフティネットの機能変化は、生命体の調節制御と非常に似ている。

今日、われわれが直面している日本経済の閉塞状況は、現在先進国を中心とする世界経済全体が成熟段階から老化のプロセスに入りかけているという背景がある。（同書P.172～173）

グローバリゼーションの過程で、「グローバルスタンダード」の名の下に大恐慌期に形成されたセーフティネットが次々と解体ないし縮小を迫られていった。しかし、それでは経済はますます困難に陥られてしまう。こうした危機的状況に対しては、何よりもセーフティネットを張り替える制度改革を優先しなければならない。それによって正しい情報をセンサーに敏感に反映させ、制御系が作動するように、多重フィードバックを回復させるのである。（同書P.177～178）

しかし実際には、新しい状況に適合するようにセーフティネットの張り替えが進まない為、各所にひずみが生じているのが、現在の日本でしょう。

もう1冊の本『日本病—長期衰退のダイナミクス—』（2016年1月 岩波新書）は、次の通りです。

現在の日本は長期化する不況、失業者の増加、年金制度の破綻、少子高齢化の進行など不安材料はいっぱいある。アベノミクスによって日本経済は「長期衰退」の時代に入り、いまや「日本病」と呼べる状態に陥っている。（同書P.9）

～*～*～ あとがき ～*

朋友だより 159号をお届けいたします。

今年は高齢者の交通事故が多数起こり、問題になりました。先日友人が運転免許証の更新を迎え、高齢者ということで認知機能の検査を受けたそうです。内容は①時間の見当識（検査時における年月日、曜日、時間を答える）、②手がかり再生と言って4種類のイラストが描かれたボードが4枚提示され、検査員の説明を受けながら記憶をする。その後、介入問題としてたくさんの数字が書かれた表の指定された数字に斜線をひいていく。それが終了した後に再び“②”で記憶したイラストをヒントなしで答える。次いで解答用紙に書かれてあるヒント（楽器とか電気製品、体の一部、動物、文房具などを手掛かりとして回答する。最後に時計描画をする。時計の文字盤を書き、指定された時刻（例：11時10分）をその文字盤に描く。記憶力、判断力の確認の為の検査でその結果を以て助言や個人指導などがされるとの事です。何より、安全運転のための瞬間的適応能力が重要だと思います。

（野上）



朋友

有限会社 コンサルタント朋友

〒174-0064 東京都板橋区中台 1-35-10

TEL. 090-4439-4550 FAX. 03-3935-3510

e-mail foryou91@tokyo.email.ne.jp

URL:<http://www.consultant-hoyu.co.jp>